

部局名	上下水道局	所属名	維持管理課	所属長名	小笠原 朗	電 話	483-6587
-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	----------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	9801		事務事業名称	污水管渠維持事業					短縮コード	経常	9801	臨時	
予算区分	会計	61	公共下水道事業会計_収益的支出	款	01	下水道事業費用	項	01	営業費用	目	01	管渠費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等		下水道法第3条						
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
本市の公共下水道事業は勝田台団地の開発により公共下水道が整備され,入居に併せ昭和43年10月から供用を開始し,昭和50年1月からは流域関連公共下水道として供用を開始した。また,公共下水道の修繕や維持管理等は下水道法により市町村が行うものとされているので,それに併せて供用開始区域における污水管渠等の維持管理を行っている。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測					総合計画の施策体系	5本の柱（章）	04	快適生活空間都市をめざして					
西八千代北部特定土地区画整理事業等の大規模開発が行われており,それに伴う公共下水道の整備により,維持管理施設も増加していく。						大項目（節）	05	下水道					
						中 項 目	01	下水道					
						小項目（施策）	03	維持管理の充実					
						細 項 目	01	下水道施設の維持管理					
実施計画の計画事業													
計画事業の位置付けの有無				☐	計画事業期間		平成20年4月 ～ 平成21年3月		計画事業費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	污水施設（污水管渠,汚水人孔等）							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成20年度に実際に行ったこと： 污水本管,汚水人孔,汚水取付管,污水公共柵及び污水マンホールポンプの修繕や清掃							
	※平成21年度に計画していること： 污水本管,汚水人孔,汚水取付管,污水公共柵及び污水マンホールポンプの修繕や清掃							
意図 （何を狙っているのか）	污水排水が安定して排除できる施設にし, 快適な生活を保障する。							
結果 （どんな結果に結びつけるのか）	入力対象外							
区 分				単位	19年度	20年度		21年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	管延長	m	419,935	422,000	424,322	430,000	
	指標2	污水マンホールポンプ	箇所	10	10	10	10	
	指標3							
活動指標	指標1	污水管渠修繕件数	箇所	33	40	61	50	
	指標2	汚水人孔修繕	箇所	85	100	108	100	
	指標3							
成果指標	指標1	管渠等の苦情件数	件	73	100	102	80	
	指標2							
	指標3							
上位成果指標	指標1							
	指標2							
	指標3							

コード	9801	事務事業名称	污水管渠維持事業				所属名	維持管理課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☐ 改革・改善して継続			管渠のつまりや陥没などの苦情が減少していない。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止(事業完了含む)								
☐ 休止								
☒ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			管理する管渠が老朽化し、管理延長も増え続けているため。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☐		
			不 変	☐	☐	☒		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
マンホール鉄蓋の振動や騒音, 污水管の詰まりの対応の要望がある。									

所属長コメント	普及率が92.4％（平成20年度末）に達し、維持管理の時代を迎えている。大半の施設が施工後30～40年を経過し、老朽化による陥没や詰まりなどが多く発生している。これらに対して、迅速な維持管理で汚水の排除に支障を期たしてないが、陥没や詰まりを未然に防ぐために維持管理の在り方を検討し、計画的な維持管理を行っていきたい。								
評価調整委員会評価	☐ 改革改善して継続			担当課の評価のとおり，現状のまま継続とするが，苦情などの課題については対応等検討すべき。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止(事業完了含む)									
☐ 休止									
☒ 現状のまま継続									